

第89回 地区内中小企業景気動向調査結果

(平成23年1～3月期実績・平成23年4～6月期見通し)

1. 調査時点 平成23年3月1日～3月7日

2. 調査対象企業数 179社中回答 179社 回答率 100.0%

区分	調査対象企業の範囲	調査対象企業数	有効回答数	有効回答率 (%)
製造業	従業員 300人以下	40	40	100.0
建設業	〃	46	46	100.0
卸売業	従業員 100人以下	8	8	100.0
小売業	従業員 50人以下	54	54	100.0
サービス業	〃	31	31	100.0
合計		179	179	100.0

3. 調査方法

当金庫調査員の面接聞き取りによる感触調査です。

調査対象企業は、当金庫の営業区域（新冠町～広尾町）内に所在する企業とし、その抽出は、各業種・規模等の基本属性の構成が、調査対象母集団の属性に見合う一定基準に基づいて有意抽出で行っています。

4. 分析方法

各質問項目で「増加（上昇）」したと回答した企業の全体に占める構成比と、「減少（下降）」したと回答した企業の全体に占める構成比との差（判断指数・D I 値）を中心にして分析を行っています。

なお、同時に信金中央金庫総合研究所が行う、全国調査結果と地区内との比較分析を行っています。

※今回調査は、3月1日～7日を調査時点としており、「東北地方太平洋沖地震」（3月11日発生）による影響は織り込まれておりませんので、ご注意ください。

5. お問い合わせ先

日高信用金庫 業務部地域貢献課（Tel. 0146-22-4114、内線621）
〒057-0013 浦河郡浦河町大通2丁目31番地2

全業種総合 179 企業（回答率 100.0%）の調査結果です

□ 概 況

今期（平成 23 年 1～3 月期）の業況判断 D I は△56.4 と、前期（平成 22 年 10～12 月期 △31.3）比マイナス幅が 25.1 ポイント拡大、3 期ぶりに数値は悪化した。全業種で弱い動きを示し、卸売業（△87.5）、小売業（△61.1）、建設業（△60.9）、サービス業（△48.4）、製造業（△45.0）の順に業況の後退が見られる。売上額 D I は△58.6（前期 0.6）と、プラス値からマイナス値に転じ、収益は△24.9（前期△7.0）でマイナス幅が 17.9 ポイント拡大している。地区別に見て景況 D I がいちばん低いのは、えりもの△75.0、次いで静内△64.0、様似△62.9、浦河△57.2、広尾△53.2、三石△36.3 となっている。来期（平成 23 年 4～6 月期）の予想業況判断 D I は△47.5 と今期実績比 8.9 ポイントの改善見通しとなっている。業種別にみると、卸売業（△25.0）、製造業（△35.0）、建設業（△37.0）、小売業（△57.4）、サービス業（△67.7）の順に良い見通し。依然として厳しい状況にある。

今回調査は、3 月 1 日～7 日を調査時点としており、「東北地方太平洋沖地震」（3 月 11 日発生）による影響は織り込まれておりませんので、ご注意ください。

【業種別天気図】

業種	地 区 内				北 海 道	全 国
	22 年 7～9 月	22 年 10～12 月	23 年 1～3 月	23 年 4～6 月見通し	当 期	当 期
総 合						
製 造 業						
建 設 業						
卸 売 業						
小 売 業						
サ ー ビ ス 業						
       好調 ← → 低調 この天気図は、景気指標を総合判断して作成したものです。						

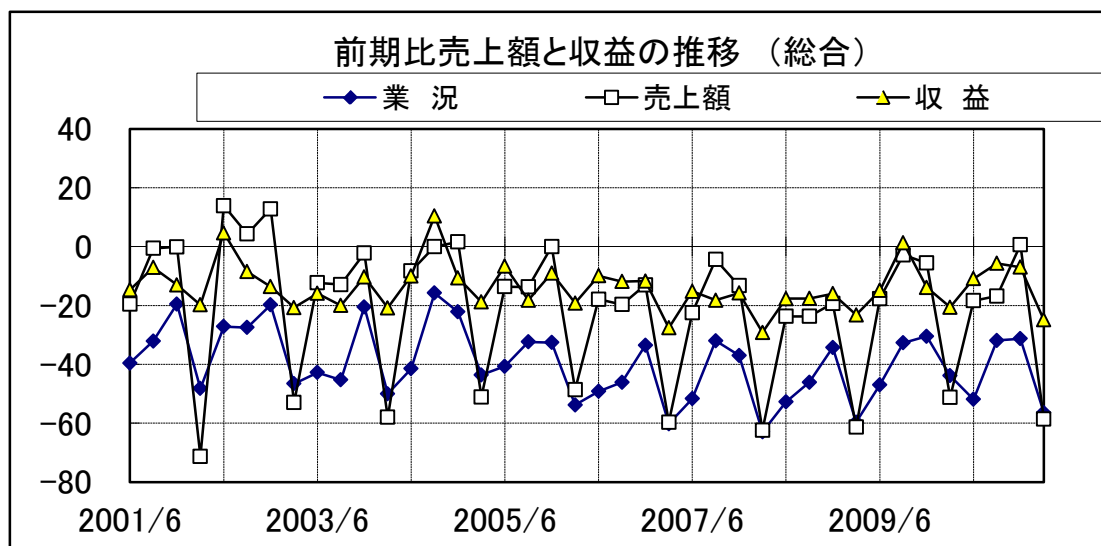
□ 景 況

DI 値 の推移	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期見通し
業 況	-31.9	-31.3	-56.4	-47.5
売上額	-16.8	0.6	-58.6	-23.6
収 益	-5.7	-7.0	-24.9	-34.7

17.9ポイント拡大している

全業種総合の今期の業況判断DIは△56.4と、前期比マイナス幅が25.1ポイント拡大、3期振りに値が低下した。全地区で悪化しているがDIが一番低いのはえりもで次に静内、様似、浦河、広尾、三石の順となっている。

売上額判断DIは、前期比売上額がプラス値からマイナス値に転じ59.2ポイント低下、収益はマイナス幅が

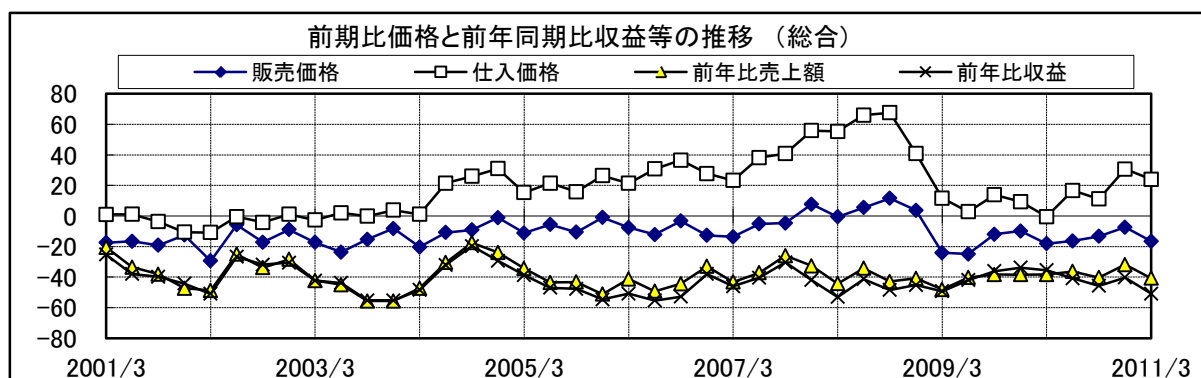


□ 価格面、前年同期に比した動き

DI 値 の推移	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期見通し
販売価格	-13.3	-7.4	-16.6	-5.0
仕入価格	11.1	30.7	24.0	26.8

販売価格判断DI(△16.6)は、前期比マイナス幅が拡大し9.2ポイント下降、価格低下基調を強めている。一方、仕入価格判断DI(24.0)は、前期比プラス幅が縮小し6.7ポイント下降、価格上昇基調を弱めている。販売価格では小売が価格上昇基調に転じ、製造、建設、卸売は価格低下基調を強めている。仕入価格では、建設、サービスが価格上昇基調を強めているが、製造・小売は上昇基調を弱めている。卸売業は価格低下基調となっている。

販売価格判断DI(△16.6)は、前期比マイナス幅が拡大し9.2ポイント下降、価格低下基調を強めている。一方、仕入価格判断DI(24.0)は、前期比プラス幅が縮小し6.7ポイント下降、価格上昇基調を弱めている。販売価格では小売が価格上昇基調に転じ、製造、建設、卸売は価格低下基調を強めている。仕入価格では、建設、サービスが価格上昇基調を強めているが、製造・小売は上昇基調を弱めている。卸売業は価格低下基調となっている。



□ 雇用面の動き

DI 値 の推移	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期見通し
残業時間	-14.0	-4.4	-15.1	-17.9
人手状況	5.6	-4.0	6.1	7.9

残業時間判断DIは△15.1と、残業時間が減少したとする企業割合が増え、前期比10.7ポイント低下した。

人手過不足判断DI値は6.1と、前期比マイナスからプラスに転じ10.1ポイント上昇、人手「過剰」超となっている。

□ 設備投資の動き

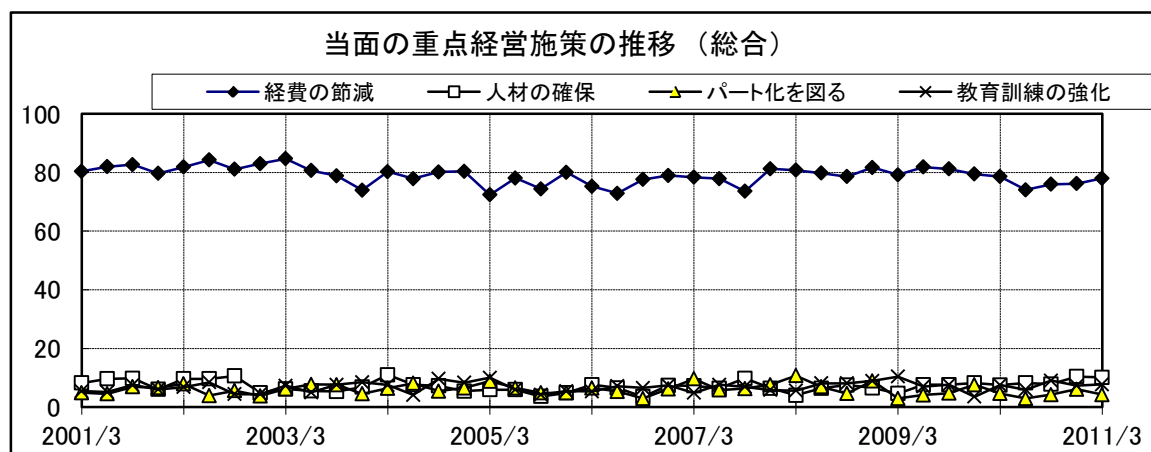
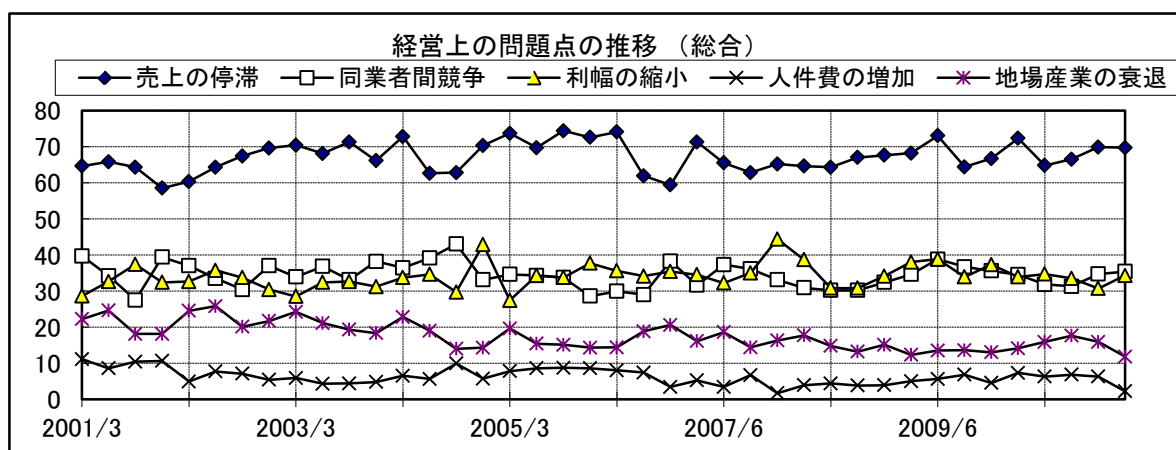
設備投資の充足感を示すD Iは△8.4と前期（△10.7）からマイナス幅が縮小し2.3ポイント上昇、不足感が弱まる。また適正と回答した企業は77.2%と、前期（81.5%）から4.3ポイント低下した。

設備投資実施企業割合は16.2%と、前期（21.2%）比5.0ポイント下降、件数で前期の38社に対し29社の実施となった。また、来期予定では当期比1社減の28社となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞」が69.7%で最も多く、次いで「同業者間の競争」35.4%、「利幅の縮小」34.3%、「地場産業の衰退」11.8%、「諸経費の増加」5.6%、「代金回収の悪化」5.6%の順となっている。

当面の重点経営施策では、「経費の節減」が78.0%で突出している。「人材の確保」10.1%、「教育訓練を強化」7.7%がこれに続く。



□ 来期の見通し

来期（平成23年4～6月期）の予想業況判断D Iは△47.5と、今期（△56.4）実績比8.9ポイントの良化見通しとなっている。業種別にみると、卸売業（△25.0）、製造業（△35.0）、建設業（△37.0）、小売業（△57.4）、サービス業（△67.7）の見通し。

予想売上額判断D Iは△23.6（今期△58.6）で、マイナス幅が35.0%縮小し良化の見通しとなっている。収益判断D Iは△34.7（今期△24.9）で、マイナス幅が拡大し9.8ポイントの低下見通しとなっている。

予想販売価格判断D Iは、販売価格が△5.0（今期△16.6）でマイナス値が11.6ポイント縮小し、価格低下基調は弱まる見通。一方、仕入価格判断D Iは26.8（今期24.0）と、プラス値が2.8ポイント上昇、価格上昇基調が強まる見通しとなっている。

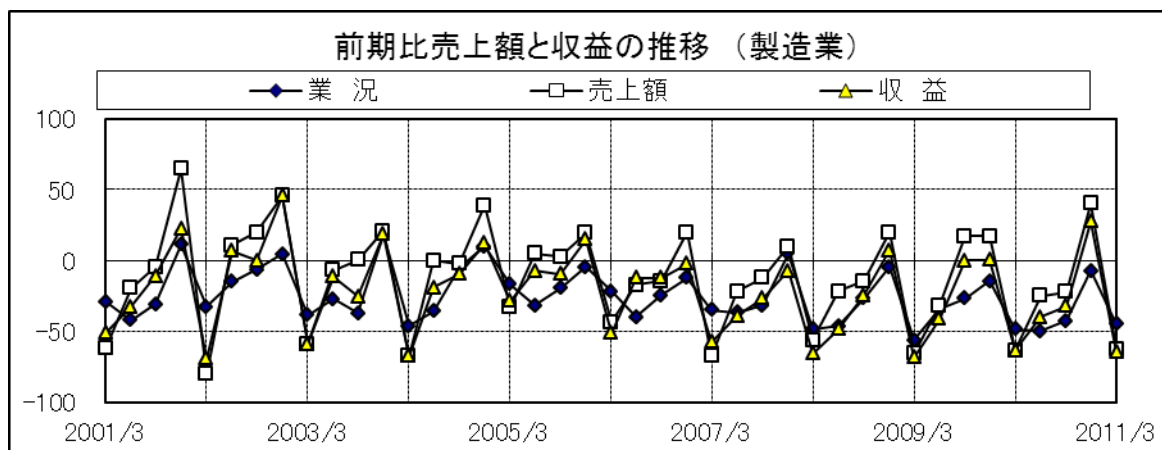
製 造 業 41 企 業 (回答率 100.0%) の調査結果です

□ 景 況

DI 値 の推移	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期見通し
業 況	-42.5	-7.5	-45.0	-35.0
売上額	-22.5	40.5	-62.5	-5.0
収 益	-32.5	27.5	-65.0	-22.5

今期の業況判断DIは△45.0と、3期振りにマイナス幅が37.5ポイント拡大した。全地区で業況の下降みられるが、浦河、広尾、様似、えりも、三石、静内の順で低い値を示している。

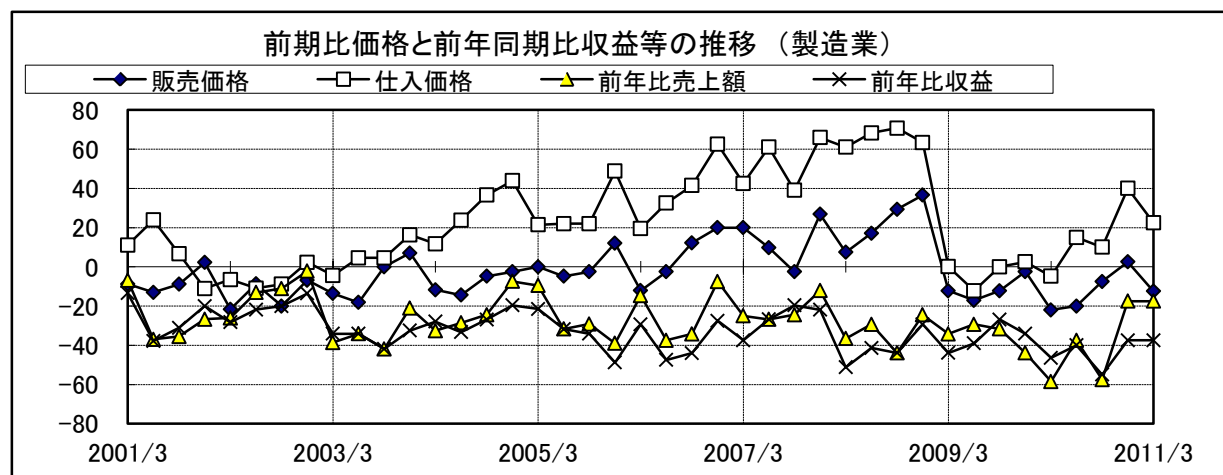
売上額、収益判断DIは、プラス値からマイナス値に転じそれぞれ、103.0、92.5ポイント低下した。



□ 価格面の動き・前年同期に比した動き

DI 値 の推移	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期見通し
販売価格	-7.5	2.5	-12.5	-5.0
仕入価格	10.0	40.0	22.5	17.5

販売価格判断DIは△12.5と、プラスからマイナス値に転じ15.0ポイント下降、価格低下基調となっている。一方、仕入価格判断DIは22.5、前期比17.5ポイント下降、価格上昇基調を弱めている。業種別にみると、食品は販売で低下基調、仕入価格で上昇基調が弱まり、木材では販売で上昇基調、仕入は上昇基調が強まっている。



雇用面の動き

DI 値 の推移	7～9月 期実績	10～12月 期実績	1～3月 期実績	4～6月 期見通し
残業時間	-22.5	7.5	-20.0	-22.5
人手状況	15.0	-5.0	17.5	17.5

残業時間判断DI（△20.0）は、プラス値からマイナス値に転じ、残業時間が減少したとする企業割合が増え、前期比27.5ポイント下降した。人手過不足判断DIは17.5と、前期比マイナスからプラス値に転じ22.5ポイント上昇、人手「過剰」超となっている。

□ 設備投資の動き

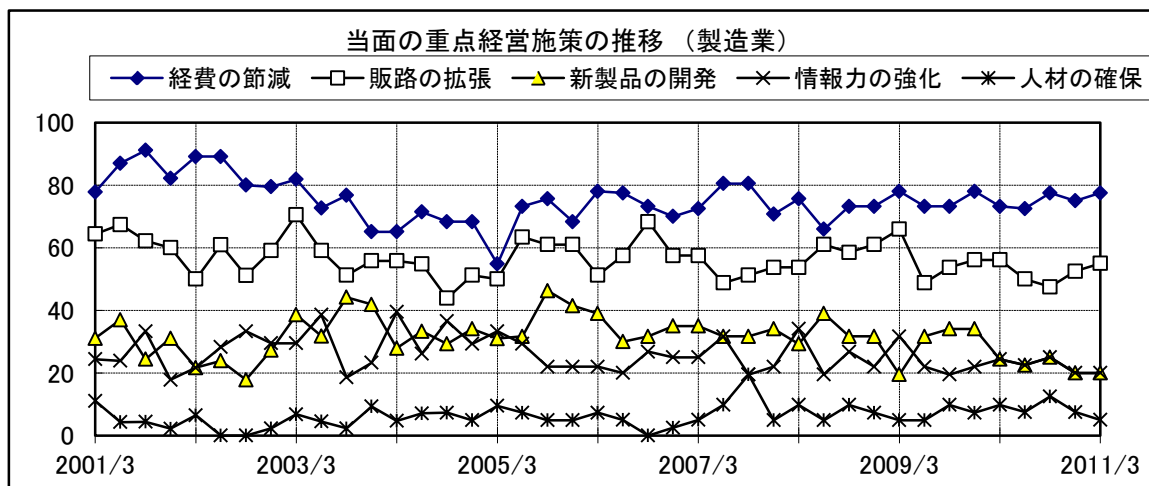
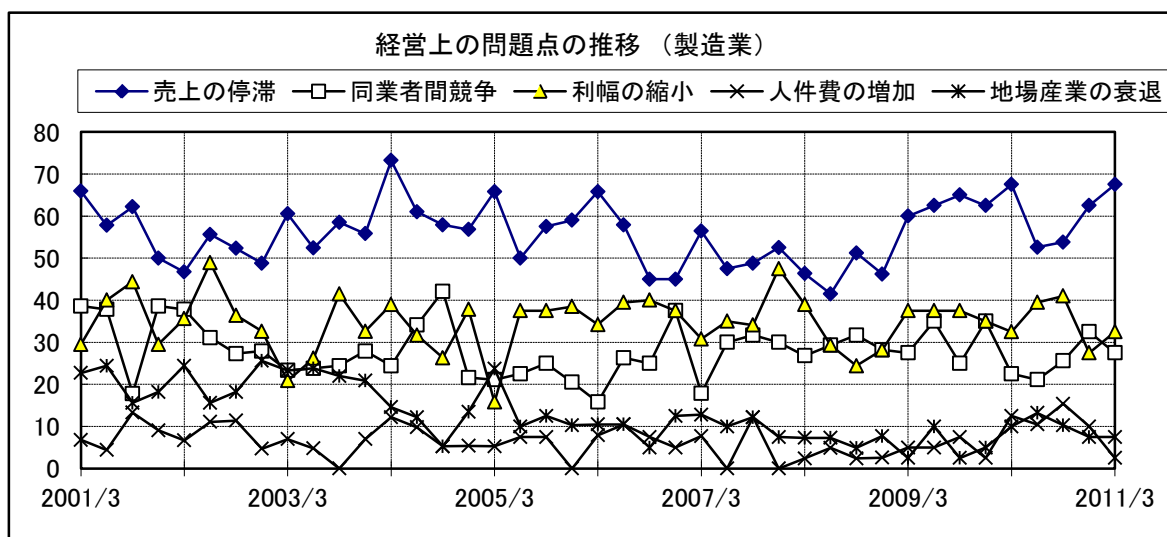
設備投資の充足感を示すD Iは△2.5 と、前期（△15.4）からマイナス値が 12.9 ポイント減少し不足感を弱め、適正と回答した企業は 77.5%と、前期（84.6%）から 7.1 ポイント下降した。

設備投資実施企業割合は 20.0%と、前期（30.0%）比 10.0 ポイント下降、件数で前期の 12 社に対し 8 社の実施となった。また、来期予定では当期比 1 社増の 9 社となっている。

□ 経営上の問題点と重点経営施策

経営上の問題点は、「売上の停滞」をトップに挙げ 67.5%、次いで「原料高」47.5%、「利幅の縮小」32.5%、「同業者間との競合」27.5%の順に続く。

重点経営施策では、「経費の節減」をトップに挙げ 77.5%、次いで「販路を広げる」55.0%、「新製品の開発」22.5%、「情報力の強化」20.0%の順となっている。



□ 来期の見通し

来期（平成 23 年 4～6 月期）の予想業況判断D Iは△35.0 と、今期（△45.0）実績比 10.0 ポイントの改善見通しとなっている。

予想売上額、予想収益判断D Iは、売上額が△5.0（今期△62.5）、収益が△22.5（今期△65.0）と、それぞれ低下基調を弱め 57.5、42.5 ポイントの改善見通しとなっている。

予想販売、予想仕入価格判断D Iは、販売価格が△5.0（今期△12.5）と、マイナス幅が縮小し価格低下基調が弱まる予想。仕入価格は 17.5（今期 22.5）と、価格上昇基調が弱まる見通しとなっている。